

Z会東大進学教室

高1 選抜東大英語

高1 東大英語



1章 時制

要点

■ 確認問題 1

解答

- (1) その女優はよくミュージカルに出演している。
- (2) 彼は自分の会社を売らなければならないだろうということを後悔している。

■ 確認問題 2

解答

与えられた英文は「その用語は以前よりもより広い意味を持つようになっている。」の意味。

used to は「過去の状態」を表す。

選択肢の意味は以下の通り。

ア (かつてここに教会があった。) ○

イ (私は早起きに慣れている。)

ウ (ナイフは切るために使われる。)

■ 確認問題 3

解答

- (1) 私はジョーをパーティーには招待しない予定である。
- (2) 我々は将来さらに長寿になるだろう。

■ 確認問題 4

解答

- (2), when を削除。(今年の夏はこの 20 年で私たちが経験した中で最も暑い夏である。)

■ 確認問題 5

解答

had left (家に着いた時、私は傘をバスに忘れたことに気づいた。)

■ 確認問題 6

解答

- (1) 工 (2030 年までに私たちの町の人口は倍増するだろう。)
- (2) ウ (彼らが到着するまでに、ショーは始まっているだろう。)

■ 確認問題 7

解答

- (1) その女優は今, ニューヨークのミュージカルに出演している。
- (2) 彼は彼女に自分の仕事を与えると決めたことをだんだん後悔している。

■ 確認問題 8

解答

- (1) be having
- (2) has

■ 確認問題 9

解答

I was just beginning to take a bath when all the lights went out.

■ 確認問題 10

解答

- (1) 私は金曜までそのホテルに滞在している。
- (2) 7:45 には朝食を食べているだろう。

■ 確認問題 11

解答

ア (先週の金曜日のテストの後, 私はぐったりしてしまった。テストまでの1週間毎日一日中勉強していたからだ。)

問題

【1】

解答

A.

- (1) flows 「ナイル川は地中海に注いでいる。」 一般的事実には現在形を用いる。
- (2) floats 「通常、木は水に浮く。」
- (3) is falling 「気をつけて！ 天井が崩れ落ちてくるよ！」
- (4) is the train stopping

A : どうしたの？ なぜ電車が止まりかけているんだろう？

B : 停止信号だよ。

B.

- (1) received, accepted, have not seen
「昨日ジョンから招待を受けて、すぐにOKしたよ。彼に会うのは数週間ぶりだからね。」
- (2) have been, have not got, were, moved
「これまで6年間この村に住んでいますが、それほど知り合いは多くありません。でも、最初に引っ越してきた時は、お隣の方が色々助けてくれました。」
- (3) have lived, died, came, was, lived, got
「うちの家族は1970年からこの家に住んでいます。つまり、父が亡くなってからずっとです。父がこの国に来たのは20年前のことです。南アメリカ出身で、結婚するまではずっとそこに暮らしていました。」

C.

- (1) have been, have you come
「君がここに来るのは、これが3回目だね。今度はなぜ来たの？」
- (2) have remembered
「彼の名前を思い出したよ。グレッグだ。」
- (3) have known, have been reading, have not finished
「小西先生とは数年来のお付き合いです。彼の最新作を読んでいるのですが、まだ読み終わっていません。」

D.

- (1) was drowning, dived, saved
「彼女、生きているわよ！ 溺れ死にそうになったけど、あの素敵な若者が飛び込んで、間一髪彼女を救助したの。」
○ in time 「間に合って」 *cf.* on time (時間どおり)
- (2) was always reading
「少年時代は読書ばかりしていた。読書には余念がなかったんだ。」
○ have *one's* nose in a book 「本の虫である」
- (3) jumped, thought, was happening, ran

「電車がまだ動いているのに、大勢の人が飛び出してきた。何か大変なことが起こっているのだと思い、逃げた。」

E.

saw, was, had been, (had) been, Had he started

○ start は他動詞として使われているため、working や to work にする必要がない。

A：昨日、公園でジョンを見かけたよ。

B：調子はどうなの？

A：とても元気だったよ。3週間近く病気で寝込んでいたけど、湖のそばで2、3日療養したんだって。

B：仕事を再開したの？

A：いや、まだだよ。月曜日に始めるって。

○ convalescence 「療養、回復、(病後)快方に向かうこと」

【2】

解答

(1) **エ** 「まもなく春がここにやって来るだろう。」 It won't be long before … で「まもなく…するだろう」の意味。before が導く節は、時を表す副詞節であり、単純未来の will を用いないという点で**ア**は不正解。**イ**は 'It's ~ that …' の構文とは考えられないため不適。**ウ**については副詞節としては動詞が現在形をとっているのが適しているが、when では意味的におかしい。[「~である時に、時間は長くない。」という意味になる。]

(2) **ア** 「飛行機が完全に停止するまで席を離れないで下さい。」 until が導く節が、時を表す副詞節であるので、未来完了の事柄は現在完了形で代用する。[単純未来の will を用いない。]

○ come to a complete stop 「完全に止まる」

(3) **イ** 「最初の晴天の日まで、運動会は延期されました。」 postpone は「~を延期する」という意味の他動詞。「延期される」という意味にするためには受け身形にする必要がある。受け身になっているのは**イ**だけ。

○ athletic 「運動競技の、体育の」

(4) **イ** 「ベルが鳴った時には我々はほとんど終わっていた。」過去完了形を用いて、the bell rang の時にはすでに空所内の動作は完了していたという流れにする。

(5) **ア** 「次の春が来ると、私たちはここに10年住んでいることになる。」未来のある時点までの状態の継続を表すので、未来完了を用いる。

【3】

解答

司教が客車に乗ってぼんやりしていると、切符を見せてくださいと言われた。司教が1つ残らずポケットを探し終わると、車掌が言った。「司教、気になさらないで下さい。後で出てくるでしょう。」司教は切符を探しつづけながら言った。「しかし、私が気になるんだ。切符を探さなければ、行き先がわからんのじゃよ。」

注

○ railway carriage 「客車」

【4】

解答

アインシュタインの相対性理論を理解することは、数学の専門家でなければ容易なことではない。相対性理論を説明する数学の公式を理解することで、はじめて相対性理論を十分に理解することができる。相対性理論には、部分的に信じがたいところもあるようだ。しかし、正しいことが実験によって証明されている。特殊相対性理論は、我々が自然現象を説明するために用いる基本的概念に関するものである。つまり、時間、空間、質量、運動、重力に関するものなのである。

【5】

解答

A.

- (1) 19世紀の半ばにイギリスで (2) 1863年 (3) 1870年代
- (4) 1930年 (5) 13(チーム)

B.

- (1) It was originally (played) mainly in the great (public) (schools) of (the) (day).
- (2) The game developed quickly as a (spectator) sport. Professional players (were) (admitted) (into) the association in the mid-1880s.
- (3) Spain, (Germany), Italy, France, and other European nations (took) (up) the game early in the 20th century.
- (4) Today, more than (170) national teams seek to be (among) the (24) that qualify to compete in the tournament.

Script

CD 2

The modern game of soccer began in the mid-19th century in England. It was originally played mainly in the great public schools of the day. In 1863 the London Football Association was founded. It published the first set of standardized rules that same year. The game developed quickly as a spectator sport. Professional players were admitted into the association in the mid-1880s.

Soccer began to spread internationally in the 1870s, when British traders, sailors, and workers carried the sport all over the world. Within a decade, it became very popular in central Europe. Spain, Germany, Italy, France, and other European nations took up the game early in the 20th century.

By 1930 professional leagues were operating in many countries, and that year the first World Championship was organized. Now known simply as the World Cup, the tournament is played every four years and has evolved into one of the major sporting events in the

world. Only 13 teams competed the first year. Today, more than 170 national teams seek to be among the 24 that qualify to compete in the tournament.

全訳

現在行われているサッカーの試合は19世紀半ばにイギリスで始まった。元々は、主に、当時の有名なパブリックスクールで行われていた。1863年にロンドン・フットボール協会が設立された。協会はその同じ年に、最初の標準ルールを発表した。サッカーは、見るスポーツとして急速に発展した。1880年代の半ばに、プロの選手がフットボール協会に認可されるようになった。

サッカーは、1870年代に国際的に広がった。当時、イギリスの貿易商や船員、労働者が世界中にサッカーを広めたのである。10年のうちに、サッカーは中央ヨーロッパで非常に人気が出た。20世紀の初めに、スペインやドイツ、イタリア、フランス、その他のヨーロッパ諸国でサッカーが始まった。

1930年までには多くの国々でプロのリーグが発足しており、その年に最初の世界大会が開催された。現在では単にワールドカップとして知られているトーナメント戦は4年ごとに行われ、世界の主要なスポーツイベントの1つに成長した。最初の年は、13チームだけで争われた。現在では、170カ国以上のチームがその世界大会に参加できる24チームに入ることを目指している。

【6】

解答

- A. (1) ② (2) ① (3) ② (4) ① (5) ④ (6) ④
B. ③-⑤-⑦-⑩

全訳

それは私が16歳の高校生だった時に始まった。若者向けの人気雑誌を読んでいる時に、日本のペンパルを求めている世界中の若者の住所リストがあるのに気づいた。私はクラスの子達が海外から来た分厚い航空便を手に入れているのを何度も見たことがあった。ペンパルがいることは、当時流行であった。自分もやってみるか、と私は思った。それで私はボストンに住む「マーガレット・K」さんという人の住所を選んだ。以前、クラスの女の子が、女の子はピンクの便箋に書かれた手紙を読むのが好きなのよ、と言っていたことを思い出して買いに出かけた。

「親愛なるペンパルへ」と書き出したが、そこでやめた。非常に神経過敏になり、どう続けたいのか、何を言えばよいのか全くわからなかった。散々苦勞して手紙を書き終えたが、1ページにも満たなかった。遠いアメリカからの返事は、思ったより早く届いた。「あなたの手紙を受け取って驚きました。」とマーガレットは書いていた。「どのようにして私の住所が日本の雑誌に掲載されてわかりません。というのも、ペンパルを求めたことはなかったからです。けれど、日本のようなすてきな国の人から便りをもらうことは実に素晴らしいことなので、あなたと文通したいと願っています。」私は何度その手紙を読み返したかわからない。

マーガレットに手紙を書く時に、彼女を驚かせるようなことは書かないように心掛けた。英語はマーガレットにとってお手のものであろうが、私には外国語であったので、日常生活のこ

としか書けなかった。けれど、心の中のどこかにあえて表に出そうとはしなかった甘酸っぱい感情があった。彼女の方はどうかと言えば、マーガレットは長い手紙を書いてくれたけれど、自分のことについてはほとんど何も漏らさなかった。

本とか、雑誌とか小さな贈り物とかを同封した大きな封筒が届き始めた。きっとマーガレットは金持ちのアメリカ人女性で、彼女の送ってくれる魅力的な贈り物と同じくらい美しいと思った。私達の文通による友情は、大いに成功したと私は思った。しかし、私の心からどうしても離れないことが1つあった。女の子に年齢を尋ねるのは失礼なことだとわかってはいたのだが、写真を送ってくれるように頼むのは構わないだろうと思った。それで、写真を送って下さいという内容の手紙を書いたら、やっとその返事が来た。マーガレットは今のところ、送るのに適当な写真を持っていないが、いつか送りますとだけ書いてあった。彼女は、「平均的なアメリカ人女性」は自分よりもずっと見た目がいいとつけ加えた。

数年が経過した。手紙のやり取りは少なくなっていったが、途切れることはなかった。そうしているうちに、私は大学を卒業し、就職し、結婚し、子供を持つようになった。いつの日かマーガレットに会い、また自分の家族も彼女に会うことになるという望みをまだ捨てていなかった。

そしてある日、見かけない字体で宛名が書かれた大きな航空便を受け取った。その中には、数冊の雑誌とアリスという名前の女性からの短い手紙が入っていた。その手紙には「このようなことをあなたにお知らせするのはとても辛いのですが、先月マーガレットは教会から自宅へ車で帰る途中交通事故にあって亡くなりました。私達は同じ高校に通い始めて以来60年間、親友だったのです。マーガレットはあなたからの便りをもらってとてもうれしいとよく言っていました。一人暮らしをしていましたが、たくさんの友人がおり、遠くの人でも近くの人でもいつも他の人を助けようとしていました。」と書いてあった。写真も同封されてあった。マーガレットは、自分が死んだら写真を送るように友人に頼んでおいたのであった。写真に写っているその顔は美しく優しさにあふれていた。それは私がまだ若く、彼女がすでにかなり年を取っていた時でさえ、愛したと思える顔であった。

注

- ℓ. 1 ○ 16-year-old 「16歳の」後ろの high school student を修飾している。year に s がついていないことに注意。
- ℓ. 4 ○ Why shouldn't I ~? 「自分も～してみてもどうか。」
- ℓ. 5 ○ pick out 「～をつまみ出す、選ぶ」カタカナ英語の「ピックアップする」の影響を受けて、pick up (～を拾い上げる、取りに行く、乗せる) と混同しないこと。
- ℓ. 15 ○ take care to do 「気をつけて…する」
- ℓ. 16 ○ naturally 「①当然、②自然に、③生まれつき」
- ℓ. 17 ○ everyday matters 「日常生活のこと」< matter 「事、事件」
○ romance 「恋愛関係、ロマンス」
- ℓ. 20 ○ contain ~ 「～を含む」
- ℓ. 23 ○ get + O + out of one's mind 「Oを忘れる、頭に入れない」
○ impolite 「無礼な」
- ℓ. 24 ○ It would be all right to do 「…しても構わないだろう」< all right 「結構な」

- ℓ. 25 ○ suitable 「適した」
- ℓ. 28 ○ meanwhile 「その間」
- ℓ. 31 ○ handwriting 「筆跡, 書体」
- ℓ. 32 ○ note 「短い手紙」

2章 助動詞

要点

■ 確認問題 1

解答

My daughter will not listen to me.

■ 確認問題 2

解答

ア (「ちょっと休みましょうか。」「ええ、そうしましょう。」)

■ 確認問題 3

解答

- (1) 私たちは同じ職場で働いていて、一緒によくコーヒーを飲んだものだ。
- (2) 多くの人はずかしの時に備えて貯金するよりも、自分の欲しいものにお金を使ったがる。

■ 確認問題 4

解答

事実は仮説を立てるために作られるべきではない。

■ 確認問題 5

解答

ア (「マイクはニューヨークに住んでいるはずがない。彼は2カ月前にロンドンに引っ越したのだから。」) 話者はすでにマイクが2カ月前にロンドンに引っ越したことを知っているの
で、アが最適。

■ 確認問題 6

解答

- (1) そのニュースはあまりに奇妙なので、信用できないかもしれませんね。
- (2) 彼の外見はあまりに変わってしまったので、彼のことがわからないのは当然だ。

■ 確認問題 7

解答

- (1) That restaurant must be very good. It's always full of people.
- (2) You can't be serious.

■ 確認問題 8

解答

need ; have, mended

■ 確認問題 9

解答

- (1) 彼女が間違えて私の傘を持っていったはずがない。
- (2) 彼はタクシーに傘を置き忘れたに違いない。
- (3) 傘を持ってくるべきだった。

問題

【1】

解答

- (1) (a) トマトソースのないイタリア料理を想像することができますか。〔「能力・可能」を表す can〕
- (b) 彼女が40歳を超えているはずなどない。まだ20代にちがいない。〔「可能性」を表す can, 話し手の強い確信を表す must〕
- (c) テーブルの上のケーキはどちらを食べてもいい。〔「許可」を表す can〕
○ either 「(2つのうちの) いずれか一方の」
- (2) (a) 今度の金曜日休みを取ってもいいですよ。〔「許可」を表す may〕
○ take ~ off 「~を仕事の休みとしてとる」
- (b) 彼は頭がいいかもしれないが、あまり常識はない。〔「可能性」を表す may〕
○ common sense 「常識」
- (c) 王様が長生きしますように！〔王様万歳！〕〔「祈願」を表す may〕
- (3) (a) 私は彼女が試験に通るかもしれないと思った。〔時制の一致による might〕
- (b) 「窓を開けてもよろしいですか。」「ええ、もちろん。」「現在を表す might。控え目に「許可」を求めている。〕
- (c) 今夜真相をつかめるかもしれない。〔現在を表す might。「可能性」を表している。〕
cf. may よりも可能性は低い。
- (4) (a) 「彼女は今どこにいるだろうか。」「今頃はもうそこにいるはずさ。飛行機で1時間しかかからないんだから。」「推量」を表す should〕
○ by now 「今頃はもう」
- (b) 学生は皆、決められた日までに作品を提出しなければならない。〔「義務」を表す should〕
○ submit ~ 「~を提出する」 (= hand in ~)
○ work 「作品」〔芸術などの「作品・著作」を表す場合は可算名詞であるが、「工芸品・彫刻」などを表す場合は不可算名詞。〕
○ given 「決められた；一定の」
- (c) 同じ仕事をしていても女性は男性よりも賃金が低いとは理屈に合わない。〔It is ... that S (should) do. の形式で「意外・驚き」の感情を表す。'...'の部分に来る主な形容詞は strange, surprising, natural, amazing 等がある。〕
- (5) (a) ジョン、ドアを開けてくださる？手がふさがってるのよ。〔will よりも控えめで丁寧な would。意味の上では「現在」を表す。〕
○ get the door 「(他の人のために) ドアを開ける」
- (b) 私たちはみんなで彼の寝タバコをやめさせようとしたが、彼はどうしてもそうした。〔「過去の固執」を表す would〕
○ stop ~ (from) ...ing 「~が...するのをやめさせる」

- (c) 彼は一言も言わずに何時間も座り込んでいることがよくあった。〔「過去の習慣」を表す would〕
 cf. He *used to* sit for hours. 〔「現在との対比」を表す〕

【2】

解答

- (1) be able to 〔未来の「能力」を表す場合, can の代わりに be able to を用いる。〕
 (2) were allowed to 〔got permission to; were permitted to〕 〔過去の「許可」を表す場合, 時制の一致により may が might になる場合を除いて, be allowed to を用いる。〕
 (3) would rather
 ○ would rather ~ than ... 〔…するより～したい〕
 (4) will you
 ○ 命令文, will you? 〔…しなさい, …してください〕 〔付加疑問〕
 (5) shall we
 ○ Let's ..., shall we? 〔…しようよ〕 〔付加疑問〕
 (6) cannot; too
 ○ cannot ~ too ... 〔どんなに～しても…しすぎることはない〕
 (7) may 〔might〕 as well; as
 ○ may 〔might〕 as well ~ as ... 〔…するくらいなら～したほうがよい〕
 (8) help laughing 〔but laugh〕
 ○ cannot help ...ing = cannot but *do* 〔…せずにはいられない〕

【3】

解答

- (1) ウ 「彼女は彼にそれをやるべきではなかったのに (やってしまった) と言った。」
 「果たされなかった義務」を表し, これを否定形にするには, not を to の前に入れる。
 ○ ought to have + 過去分詞 〔…すべきであったのに (しなかった)〕
 (2) エ 「彼が今会社にいないところを見ると, 彼は家に帰ったに違いない。」
 ウは gone を形容詞「行ってしまった」と考えれば正しいように見える。しかし, home が結びつくのは動詞なので問題あり。
 ○ must have + 過去分詞 〔…したに違いない〕
 (3) エ 「先生は私が机に書くべきでなかったのに (書いてしまった) と言った。」
 「…すべきでなかったのに (してしまった)」の意味を表したいので, should not have + 過去分詞の形にする。
 ○ should have + 過去分詞 〔…すべきだったのに (しなかった)〕
 (4) ア ○ cannot have + 過去分詞 〔…したはずがない〕

【4】

解答

「全訳」下線部(1), (2)参照。

全訳

幸運にもよい方向感覚に恵まれて生まれてくる人々がいる。彼らは、たとえある場所を1度しか訪れたことがなくても、何年も後にそこを見つけることができるであろう。私は極端に方向感覚が悪い不幸な人間の1人である。(1)ある場所を何度も訪れていたとしても、それでもそこへ行く途中で迷ってしまう。

私は10代の頃は、とても内気だったので、まったく知らない人に思い切って道を尋ねるようなことは決してしなかった。(2)そういうわけで、私はぶらぶらと歩きまわって、偶然目的地に着くことを願ったものだった。

注

- even if 「たとえ…でも」〔譲歩を表す接続詞〕
- those A who [この those はAが who の先行詞であることを表す用法で日本語には訳出しないのが普通。]
- extremely 「極端に」 < extreme (形容詞)
- by chance 「偶然に、たまたま」 (= by accident ; accidentally)

【5】

解答

- (1) 「全訳」の下線部参照。
- (2) 「全訳」の下線部参照。
- (3) 空所(3) イ, 空所(5) イ
- (4) 砂漠で浅い墓に埋葬された死体が、乾燥した気候によって腐敗をまぬかれた、という自然の過程。
- (5) led the ancient people to develop complicated customs such as
- (6) 「全訳」の下線部(7)参照

解説

- (1)
 - ① 助動詞 may は推量の意味では「～かもしれない」。
 - ② “In Egypt,” は動詞 answer の目的語となっている。
 - ③ since は「…だから、なので」の意味を持つ接続詞
 - ④ a lot は「多くのもの(書物)」の意味で名詞として働き have read の目的語となっている。
 - ⑤ mummies は mummy 「ミイラ」の複数形。
- (2)
 - ① Although は譲歩を表す接続詞。Although … で「…だけれども」
 - ② ancient は形容詞で「古代の」
 - ③ be famous for A で「A で有名である」の意味

- ④ its は Egypt を受けている。
- ⑤ think の後に名詞節をつくる接続詞 that が省略されており South Americans 以降は think の目的語になっている。
- ⑥ must have + 過去分詞は「…だったにちがいない」の意味で過去に対する推量を表す。
- ⑦ to practice ~ は the first を修飾する形容詞用法の不定詞。the first to practice ~ で「～をはじめて実践したもの〔人々〕」の意味。
- ⑧ preservation は「保存, 保護」の意味の名詞。

(3)

空所(3)

各選択肢の助動詞 + have + 過去分詞の意味は

ア cannot have + 過去分詞「…したはずがない」

イ may have + 過去分詞「…したかもしれない」

ウ should not have + 過去分詞「…すべきでなかったのに」

エ need not have + 過去分詞「…する必要はなかったのに」

であり, ここではイの may have started が入り「砂漠でこうした遺体を見始めたのかもしれない」の意味でつながる。

空所(5)

各選択肢の意味は

ア because of A 「A のために, A だから」

イ according to A 「A によれば」

ウ in spite of A 「A にもかかわらず」

エ contrary to A 「A に反して」

空所を含む文は「気候の記録 (5), 降雨量は既に増加しており, 多くの人々に新鮮な水の利用を可能にしていた」という意味になり, イの According to を入れることにより「気候の記録によれば」となる。

(4) 下線部は「自然の経過, 自然による方法」の意味。第2パラグラフの後半に, The Chinchorro were just copying nature. 「チンチョーロの人々はまさに自然をコピーしていたのだ」とあり, これを受け, 第3パラグラフの第1文と第2文で「古代南アメリカの民は砂漠の浅い墓に死骸を埋めた。そこで, 乾いた気候が遺体を乾燥させ, 腐敗を防いだ。」とある。解答はこの部分をまとめ, 「経過」を説明する方針で書く。

別解

チンチョーロの人々が埋葬した死体が, 乾いた気候のために砂漠の浅い墓で乾燥し, 腐敗しなかったというプロセス。

(5) 設問を含む文は, scientists (S) propose (V) that (O) となっており, この propose の目的語となる接続詞 that の節中で this population boom 「この人口の急激な増加」が主語となっている。語群の中で, 動詞 lead の過去形である led がありこの動詞を中心に文を組み立てていく。lead O to V で「O が～するように導く」。また develop が動詞であることから to develop とつながる。さらに such as は A such as B で「B のような A」の意味となるが, これは文末の mummification 「ミイラ化」に注目し complicated customs such as

mummification 「ミイラ化のような複雑な習慣」となる。これにより people が O の部分に入るが the ancient が people を修飾し the ancient people となる。以上より空欄内は led the ancient people to develop complicated customs such as となり, this population boom 以下は「この急激な人口の増加が、古代の人々を、ミイラ化のような複雑な習慣を發展させるように導いた」の意となる。与えられた日本語は無生物主語を副詞的に和訳し、目的語である the ancient people を主語として和訳したもの。

(6)

① It seems that …は「…のようだ、…のように思われる」

② cannot ~ too で「どんなに~してもしすぎることはない」の意となる。

Ex. You cannot be too careful when you cross the road.

「この道路を渡る時には、どんなに注意をしてもしすぎることはない。」

この例文では too は careful を修飾しているが、下線部では too が much を修飾しており、「どんなに…を強調してもしすぎにはならない」となる。

③ that の中の主な構造は scientists (S) can't emphasize (V) … the importance (O)

④ environmental changes in cultural evolution : 「文化の進歩における環境の変化」

全訳

世界のどこでミイラ作りが始まったか知っていますか。(1)エジプトのミイラについてあなたは多くを読んだことがあるので、「エジプトで」と答えるかもしれません。(2)古代エジプトはミイラで有名ですが、多くの歴史家は南アメリカの民が最初にこの保存方法を実践したにちがいないと考えています。現在のチリ北部とペルー南部にある砂漠の沿岸地帯で、およそ7千年前にチンチョーロの人々は死者をミイラ化し始めたのです。

現在、科学者は、いかにしてこの習慣が始まったかの説明をしています。チンチョーロ人はまさに自然を真似ていたのです。

古代の南アメリカ人は砂漠で深さが浅い墓に死体を埋めていました。そこでは、乾いた気候が死体を乾燥させ、腐敗を防ぎました。チンチョーロの人口が増加した時、砂漠でこうした遺体を見始めたかもしれない村人たちも増加したのでしょうか。彼らは自然の経過を真似て死者のミイラを作り始めたいという気になったと科学者は新たな研究で報告しています。

7000年前、チンチョーロの人口は急激に増加していました。この増加はおそらく、容易に手に入る水と食糧によって刺激されたのでしょうか。気候の記録によれば、降雨量は増加しており、より多くの人々がきれいな水を入手できたのです。科学者は、同時代の地層から、かぎ針やもりを含め漁に使う道具も発掘しました。これらが、当時チンチョーロ人が多くの魚や海産物を食べていたということを示しています。新たな研究では、こうした人口増加のために古代の人々がミイラ作りのような複雑な習慣を發達させることになったと科学者は提案しています。人口の増加はより多くの定住とより多くの死体を意味し、そして自然に保存されている遺体が浅い墓から出ているのをより頻繁に目の当たりにするということの意味したのです。

「環境の変化は、通常、複雑な社会の崩壊と結びついている」とこの研究のリーダーであるパブロ・マルケは述べました。「しかし、資源が豊富であれば、環境変化は文化の進歩にとって豊かな土壌を提供することが可能なのです。」(7)文化の進歩において環境の変化が重要であることを科学者がどんなに強調してもし過ぎになることはないようです。

【6】

解答

- (1) must 「ご冗談でしょう。」
○ I'm sure (that) ~ 「きっと～だと思う」
○ joke 「冗談を言う」
○ must 「…にちがいない」〔話し手の強い確信を表す。〕
- (2) can't 「彼がまだ生きているはずなどない。」
○ It is impossible that S V ~ 「～はとてもありえない」
○ cannot 「…のはずがない」〔「可能性」を表す can〕
- (3) need not, doesn't ; to, doesn't have to 「彼は宿題をする必要はない。」
○ need not 〔助動詞なので、S が He だからといって needs not としない。〕
○ doesn't need to 〔動詞なので to 不定詞をとる。〕
○ doesn't have to 〔have [has] to の否定形は「…する必要はない」の意味。〕
- (4) Would [Do] ; mind ; smoking, Would [Do] ; mind ; if 「タバコを吸っても構いませんか。」「どうぞ。」
○ Would [Do] you mind my [me] ...ing? 「…しても構いませんか」
○ mind *one* (s) ...ing 「人が…するのを嫌がる ; 気にする」
cf. Would [Do] you mind ...ing? 「…してくれませんか」〔依頼表現〕
○ Would [Do] you mind if ~ 「～しても構いませんか」
- (5) Can 「彼は好きなきにはいつでも車を持ち出してもいいのですか。」
○ be allowed to *do* 「…してもいい」〔「許可」を表す〕
○ whenever ~ 「～する時はいつでも」〔時を表す副詞節なので、未来を表す will を用いない。〕
○ can 〔「許可」を表す〕
- (6) used to be 「かつてここにアイスクリームの店があったが、今は閉店している。」
○ used to be 〔現在との対比で用いる過去の状態〕
- (7) may [might] well 「あなたがそう言うのももっともだ。」〔= You have good reason to say so.〕
○ may [might] well *do* 「…するのももっともだ」

3章 不定詞

要点

■ 確認問題 1

解答

イ「姫路城はユネスコによって世界文化遺産に登録される日本で最初の場所の1つであった。」

■ 確認問題 2

解答

- (1) イ「祖母の趣味は庭で野菜作りをすることです。」to不定詞は、未完了のことを表す時に、動名詞はすでに実現していることを表す時に使われる。ここでは「趣味」なので、すでに「野菜作りをしている」必要がある。
- (2) イ「フリークーポンを手に入れるためには、名前とメールアドレスを記入して登録さえすれば結構です。」

■ 確認問題 3

解答

- (1) イ「トミー、行儀よくしてもいい年頃だよ。」behave oneselfは「行儀よくする」の意味。
- (2) ウ「そのおばあさんは扱うのが非常に難しい人だとわかった。」

■ 確認問題 4

解答

- (1) ウ「よく指摘されることだが、環境を守る最善の方法は、不要なことを一切しないことである。」
- (2) エ「残念ながら、このシャツには物を入れるポケットがない。」

■ 確認問題 5

解答

ア「私が止めたのに、彼女はその儲け話に乗った。」thoughの後ろは、I told her not to take part in it という文が短縮された形になる。

■ 確認問題 6

解答

知性を備えているかどうかを本当に測るものは、やり方をどれだけたくさん知っているかではなく、どうしたらよいかわからない時、どのように行動するかである。

■ 確認問題 7

解答

イ「君が彼女の前でその問題に触れなかったのは思いやりがあったね。」元の文に戻すと、
It was considerate () you not to mention … となる。

■ 確認問題 8

解答

ウ「その男はいわば、場違いな人だ。」選択肢はいずれも独立不定詞になっている。ア「～は言うまでもなく」イ「～とは言わないまでも」ウ「いわば (= as it were)」エ「～は言うまでもなく」。なお、a fish out of water は「場違いな人間」という意味。

■ 確認問題 9

解答

- (1) 最悪のことはまだ起きていない。[これからもっと悪いことが起きる。]
- (2) この小説は来週返却すること。

■ 確認問題 10

解答

- (1) moving → move 「テーブルを動かすのを手伝ってくれないか。」
- (2) that they make → them make 「私の親友は彼らが彼女の誕生祝ケーキを作るのを手伝った。」

問題

【1】

解答

- (1) of the boy to leave 「その少年は無礼にも、『ありがとう』も言わずに立ち去った。」
○ it is ~ of 人 to do 「…するとは人は～だ」〔polite は人物の行為を通じて、その人物に対する話し手の主観的評価を述べる言葉なので、前置詞は of となる。〕
- (2) for ; to 「彼が出世するのは当然のことだった。」
○ it is ~ for 人 to do 「人が…するのは～だ」〔natural はある事柄に対する判断を述べる言葉のため、前置詞は for をとる。〕
- (3) never to 「その船は港を出て、二度と戻らなかった。」〔「結果」を表す副詞用法の不定詞〕
- (4) have read 「彼はその手紙を読んだようだ。」〔完了不定詞。述語動詞よりも前の時を表す。〕
- (5) as not 「眠っている子供たちを起こさないようにそっと歩いてください。」
○ lest ~ should … 「～が…しないように」
○ so as not to do 「…しないように」〔= in order not to do〕〔「否定の目的」を表す副詞用法の不定詞〕

【2】

解答

- (1) **エ** 「私にそんな素敵なプレゼントをくれるなんて、あなたは何て優しいんでしょう。」
○ it is ~ of 人 to do 「…するとは人は～だ」〔kind は人物の行為を通じて、その人物に対する話し手の主観的評価を述べる言葉なので、前置詞は of となる。〕
- (2) **エ** 「あなたの気持ちを傷つけたならごめんなさい。そんなつもりじゃなかったんです。」
〔代不定詞 (= I didn't mean to hurt your feelings.)〕
- (3) **ア** 「彼は、その石が重すぎて持ち上げられないとわかった。」
○ too ~ for 人 to do 「～すぎて人は…できない」
- (4) **ア** 「アパートを借りましたか。」「いいえ、借りることになっていたんですが、計画がだめになったんです。」〔was [were] + 完了不定詞で、その行為が過去において実現しなかったことを表している。〔…することになっていたのだが (できなかった)〕〕
○ be to do 「…することになっている」〔「予定」を表す〕
○ fall through 「(計画などが) 失敗に終わる、だめになる」
- (5) **エ** 「私が思うに、ジョンはかなり利己主義で、少し虚栄心が強い。彼とうまくやっていくのは容易ではない。」〔形容詞を修飾する不定詞。不定詞が文の主語を目的語とする場合〕
○ selfish 「利己的な、わがままな、自分本位の」
○ vain 「虚栄心が強い」
○ get on with ~ 「～と仲良くやっていく」

【3】

解答

大昔、南イングランドから北イングランドに行きたい時、人々はテムズ川を渡って移動するしかなかった。そこで便利な地点に橋を架けなければならなかった。すなわち、テムズ川が、船がさらに航行するには浅すぎる地点で、しかも一方の岸から他方の岸まで人や品物を安全に運べるものを建造するのに川幅の広すぎない地点である。この地点が、昔も今もロンドンなのだ。

【4】

解答

「全訳」下線部(1), (2), (3)参照。

全訳

アメリカでは、教育の最初の目的は子どもたちに聖書を読ませる訓練をすることであり、その意図は宗教的なものであった。(1)のちに教育の目的は、人々を読み書きができ、民主的なプロセスに参加できるようにさせることであった。さらにあとには、教育の目的は若者に現代社会で仕事をするための準備をさせることであった。(2)教育の目的が学生を一個人または完全な人間になる準備をさせることでは決してなかった。教育のそのような面は、家庭、教会、マスコミ、街中（の人々）に委ねられていた。大部分は今でもそこにある。だが、機械化によって工業生産における人間的要因が減少するような社会においては、教育の目的は再び変わらなければならない。(3)『仕事』がせいぜい付随的なものにすぎないような、充実した有意義な生活を送るように、教育は人々に教え始めなければならない。

注

ℓ. 2 ○ intent 「意図」 (= intention)

ℓ. 4 ○ At no time (決して…ない) という否定の副詞句が強調されて文頭に出て、倒置が起きている。

ℓ. 6 ○ to a large extent 「大部分は、かなりの程度まで」

ℓ. 10 ○ incidental 「付随的な」

【5】

解答

(1) Many young children begin [start] to cry when they see a doctor. They seem [appear] to assume that [take it for granted that] they will be given a painful injection.

(2) Parents are surprised [amazed] and deeply moved to realize how much belief their children have in them. At the same time, they are worried about how they can keep from [avoid] disappointing their children.

解説

(1)

○ 「医者を見ただけで子供が…する」: 「医者を見た時に」と考えて when 節で表すのがよい。

- 「…し出す」: 不定詞を使って, begin [start] to do という形で表すことができる。あるいは, burst into tears (泣き出す) を使ってもよい。
- 「…するようだ」: 不定詞を使って S seem [appear] to do の形や, It seems [appears] that S + V の形もある。
- 「決めつけている」: assume that … (…と仮定する) や take it for granted that … (…を当然のことと考える) などに読み替える。さらには, 「医者と注射を結びつけて考える」と読み替えると, associate ~ with … (~と…を結びつけて考える) や mean (~を意味する) を使うこともできる。

(2)

- 「驚く」「感激する」という感情の原因を, 不定詞を使って表す。ただし, 感情 → 原因 という順に表現する。
- 「いかに信頼しているか」「どうしたら幻滅させないでいられるか」という2つの部分は, そのまま感嘆文と疑問文として埋め込むことができる。
- 「~を信頼する」: trust ; believe in ~ ; have belief in ~
cf. I believe in him. (彼 (の人格) を信じる)
cf. I believe him. (彼 (の発言) を信じる)
- 「分かる」: 「悟る」と考えて realize や, know を使う。
- 「その反面」: at the same time ; on the other hand など。
- 「~を幻滅させる」: disappoint を使う。

【6】

解答

A.

- (1) 16日と17日 (2) 手帳の違う月のところを見ていたから。
(3) 120ドル (4) 2010年8月の終わり(31日)

B.

- (1) He wants to stay there on Saturday and Sunday.
(2) It costs (an extra) 10 dollars.
(3) 4129 2239 721 604

Script

CD 4

A : Riverside Hotel. May I help you?

B : Yes. I'd like to reserve a room, please.

A : All right, sir. For when?

B : I wonder if you have a room available for this coming weekend — Saturday and Sunday nights, the 18th and 19th.

A : All right ... Um, are you sure? The 18th and 19th is Monday and Tuesday.

B : Is it? Oh, yes, sorry. I mean the 16th and 17th. I was looking at the wrong month in my diary.

A : OK, we have rooms available then.
B : How much would it cost?
A : Would you like a single room or double room, sir?
B : A double room.
A : Well, that would be 120 dollars a night, plus 10 percent tax. Or, we have a special, larger room with a living room area for 180 dollars plus tax. We can also provide a car parking space for an extra 10 dollars a day.
B : No, I won't need that. I'll just take the usual, normal room.
A : Fine. Now, I'll need your name and credit card information.
B : All right, my name is Langdon, initial R.
A : Thank you, Mr. Langdon. And the card?
B : It's a VISA card, number 4129 2239 721 604.
A : And when is the expiration date?
B : It's valid until the end of August, 2010.
A : Thank you.

全訳

A : リバーサイド・ホテルです。どのようなご用件ですか。
B : 部屋を予約したいのですが。
A : かしこまりました。いつですか。
B : 今週の週末に部屋は空いているでしょうか。18日、19日の土曜と日曜の夜です。
A : わかりました…。ええと、間違いございませんか。18日と19日は月曜日と火曜日ですが。
B : そうですか？ ああ、そうです、失礼。16日と17日です。手帳の違う月のところを見ていました。
A : 分かりました。それでしたら、お部屋をご用意できます。
B : おいくらでしょうか。
A : シングルとダブルのどちらがよろしいですか。
B : ダブルをお願いします。
A : ええ、1泊120ドルに税金が10%かかります。あるいは、リビングのスペースがついた特別の大きな部屋もございます。こちらは180ドルと税金です。また、駐車場は1日10ドルでお使いいただけます。
B : いいえ、それは必要ありません。いつもの普通の部屋をお願いします。
A : 承知しました。では、お名前とクレジット・カードの情報をお願いします。
B : はい、名前はラングドン、イニシャルはRです。
A : ありがとうございます、ラングドン様。カードの方は？
B : VISAカードで、番号は4129 2239 721 604です。
A : 有効期限はいつですか。
B : 2010年の8月です。
A : ありがとうございます。

注

- reserve ～ 「～を予約する」
- I wonder if ～ 「～かしら（と思う）」… ものを尋ねたり頼んだりするときの丁寧な言い方。
cf. I wonder if you remember me. (私のことを覚えていらっしゃるでしょうか。)
- available 「利用できる, 入手できる」
- double room 「(ホテルの) ダブルベッドの部屋」
- for an extra 10 dollars a day 「1日につき10ドルの追加料金で」… extra は「余分の, 割り増しの」の意味。この場合, an extra ～のように不定冠詞がつくことに注意。
cf. wait an extra five minutes (さらに5分待つ)

【7】**解答**

気球の発明によって、人間は初めて大地から離れることが可能になった。飛行機の発明によって、人間は地球の表面より高いところを高速で飛行することが可能になった。しかし、偉大なロケットの発明によって、人間はこの地球から離れて、地球を取り巻く宇宙空間へと旅立つことが初めて可能になったのである。1957年、ロシアの宇宙船が地球の周りの軌道に乗った時、人間は宇宙へその大いなる第一歩を踏み出したのである。

MEMO

4章 分詞

要点

■ 確認問題 1

解答

- (1) ウ「友達がベストセラー小説を貸してくれたが、ひどく退屈なものだった。」
- (2) イ「木の下に寝ている犬は隣の人の犬だ。」
- (3) イ「先生は何人かの生徒が授業中に居眠りをしているのを見つけた。」

■ 確認問題 2

解答

- (1) ア「現代は情報技術時代だと言われるのをよく耳にする。」
- (2) イ「パーティは非常に騒々しかったので、私は話を聞いてもらうのにずっと大声を出さなければならなかった。」

■ 確認問題 3

解答

- (1) エ「ベストを尽くしてきたので、ジェーンは自分が選んだ大学に入学を認められることを確信している。」
- (2) ウ「少し離れて見ると、その大きな岩は人の顔のように見える。」
- (3) ウ「嵐の日だったので、ティムは仕事のあとでジムへ行くのをあきらめて帰宅することに決めた。」
- (4) ウ「講演者は終わりのベルが聞こえなくて、さらに 30 分話し続けた。」

■ 確認問題 4

解答

- ウ「ロッキングチェアに座っていた若い女性は、太陽がまぶしいので片手で日よけをしながらパットを見上げた。」

問題

【1】

解答・解説

- (1) **ア** 「私はその映画が非常にワクワクするものだとわかった。」 [find O C (OがCである)とわかる)の文型で、O=Cの関係が成り立ち、the movie は「人をワクワクさせる」ので、exciting が入る。]
- (2) **イ** 「しばらくの間座ったままでいて下さい。」
○remain C 「Cのままている」
○be seated 「座っている」
- (3) **ウ** 「彼は誕生日プレゼントをもらった時、とてもうれしそうだった。」 [pleasing は「人を喜ばせる」、pleased は「人が喜ばされる → 人が喜んでいる」の意味で、主語が he なので pleased が入る。]
- (4) **エ** 「橋が壊れていたのに、彼らは泳いで渡るしかなかった。」
○with O C (過去分詞) 「OがCされた状態で」 [付帯状況]
○there is nothing one can do but … 「…する以外どうしようもない」
- (5) **ウ** 「ポールは片手を目の前にかざして立っていた。」
○with O C (現在分詞) 「OがCしている状態で」 [付帯状況]
- (6) **イ** 「あなたはお母さんにワイシャツをアイロンがけしてもらったのですか。」
○have O C (過去分詞) 「OをCしてもらう」
- (7) **イ** 「部屋に入ると、彼がベッドで本を読んでいた。」
○find O C (現在分詞) 「OがCしているのを見つける」
○Coming into the room = When I came into the room [分詞構文]

【2】

解答・解説

- (1) not knowing where to find the book [「理由」を表す分詞構文。否定語 not は分詞の前にくる。]
- (2) Having been written in haste (was が不要) [完了形の分詞構文。文の述語動詞よりも前の時を表す。]
- (3) Not having seen him for a while [「理由」を表す分詞構文。完了形の否定の場合、not having + 過去分詞 となる。]
- (4) Taking everything into account (consider が不要) [慣用的な分詞構文。take ~ into account (～を考慮に入れる)。]

【3】

解答

ジェイはその鳥のところへ行き、そっと抱き上げて調べた。2時間たたないうちに、その小鳥は、翼を上手に包帯で巻かれ、お腹をミルクで温められて、彼がその小鳥のために作った鳥

籠の中で体を休めていた。

【4】

解答

「全訳」下線部(1), (2), (3)参照。

全訳

キットは、まるでとても冷たい水に飛び込むのに備えるかのように深く息を吸い込んだ。彼女は光がまだらになっている所の端で一瞬立ち止まった。(1)それから、覚悟を決めて、闇の中へ出て行った。

一瞬彼女は、実際に水の中へ飛び込んだような気がした。彼女の周りで闇が濃くなった。彼女の目や鼻や耳が闇に包まれた。あらゆる所が闇に覆われていた。彼女は一息つくことができなかった。(2)パニックが収まり始めると、彼女は無理やり肺に空気を一杯に吸い込んだ。片手を伸ばして、彼女は手探りで壁を探した。彼女は壁を見つけて、それにもたれて体を支えた。(3)そして、慎重に、一歩ずつ、廊下に沿ってサンディーの部屋へ向かって進み始めた。

注

ℓ. 4 ○ plunge into ~ 「～に飛び込む」

ℓ. 6 ○ catch *one's* breath 「一息つく」

ℓ. 8 ○ down the hall 「廊下に沿って」東大下線部和訳問題でも出題された表現。

【5】

解答

(1) I left my bicycle near [by] the station and had it stolen. I really should have been more careful.

別解

I left my bike parked outside [in front of] the station and it got [was] stolen. I deeply [greatly] regret that I was not more cautious [I wish I had been more cautious].

(2) These days we sometimes see women making up their faces on the commuter train without any concern. I wonder where all the ideal, graceful Japanese women have gone.

解説

(1)

○「駅前に停めていた自転車」：ここでは他の自転車と区別している訳ではないので、関係詞で限定しない。「駅前に停めていた時に盗まれた」のように解釈して when 節でないでもよい。

○「駅前」：文字通り「駅の前に (in front of the station)」ということもあるが、多くの場合は「駅の近くに (near [by] the station)」あるいは「駅の外に (outside the station)」と表す方が適当。

○「物を…される」：経験受動態を、have [get] + O + *done* という形で表す。あるいは

自転車を主語にして, it (= my bicycle) got [was] stolen としてもよい。

- 「…すべきだった」: 助動詞の完了形を使って, should have *done* という形で表すか, I regret that … あるいは, I wish + 仮定法過去完了 という形で表すとよい。

(2)

- 「最近」: 現在時制なので, these days を用いる。recently は通例過去形か現在完了形でのみ使用する。「今日の女性」と読み替えて, women today としてもよい。
- 「通勤電車」: commuter train でもよいが, 「出勤途中の電車」と読み替えて the train on the [their] way to work としてもよい。
- 「～が…しているのを見かける」: 現在分詞を使って, see + O + …ing という形で表す。主語を「女性」にした場合, 「見かける」はなくてもよい。
- 「大和撫子」: 日本女性の清楚な美しさをたたえて言う語で, 直接置き換えられる英語はない。したがって, 「日本女性」の良さを形容する言葉を用いて表す。「伝統的な (traditional)」「理想的な (ideal)」「控えめな, 慎み深い (modest)」「優雅な (graceful ; elegant)」「礼儀正しい (polite ; courteous ; well-mannered)」「気のきいた (considerate)」などの形容詞を使って表す。
- 「～はどこへ行ってしまったのか」: I wonder に疑問文を組み込んで, I wonder where ~ has gone. と表してもよいし, 「～はどうなったのか」と読み替えて, What has happened to ~? や What has become of ~? を使って表してもよい。
- 「平気で」: 「(周囲への) 配慮なしに (without any concern)」や「…することを気にしない (do not mind …ing)」などの表現に読み替える。
- 「化粧する」: make up (*one's* face) ; make *oneself* up や「化粧を直す」と読み替えて fix *one's* make up [face] など。

[6]

解答・解説

- (1) ①ケ→②ウ→③カ→④ア→⑤ク→⑥エ→⑦コ→⑧イ→⑨オ→⑩キ

①ケ パイは父親の動物園にある家で育つ。(l.1 参照) →②ウ インドで新しい政府が選ばれる。(l.4 参照) →③カ パイの家族は動物園を閉めて, カナダに移ることにする。(l.5 参照) →④ア カナダに行く途中でひどい嵐に遭い, 船は沈没する。(l.7 参照) →⑤ク パイは動物たちと救命ボートに乗っているのがわかった, 恐怖で海に飛び込む。(l.8 ~ l.10 参照) →⑥エ パイは海にはサメがいることを思い出し, 救命ボートに戻る。(l.10 ~ l.11 参照) →⑦コ ボートに乗っている動物の何頭かは他の動物に殺されて食べられてしまう。(l.11 ~ l.12 参照) →⑧イ パイはボートに食料を見つけるが, その後魚を捕り始める。(l.19 ~ l.20 参照) →⑨オ パイとトラは救命ボートで 227 日を過ごし, 太平洋を横断する。(l.21 ~ l.22 参照) →⑩キ ついにパイとトラはメキシコの海岸にたどり着く。(l.22 ~ l.23 参照)

- (2) **エ** 「彼女は赤ちゃんを腕に抱いて, その子にキスをした。」 Taking the baby in her arms, は付帯状況を表す分詞構文。下線部(1)の taking the animals with them も「動物たちと一緒に連れて」となり, 付帯状況を表す分詞構文であるので, **エ** が正解。

ア「飛行機で長距離移動したので、私たちはとても疲れた。」 Taking a long-distance flight, は理由を表す分詞構文。

イ「強盗たちは宝石を盗んでいるところを見つけた。」 catch + O + …ing で「O が…しているところを見つける、目撃する」の受動態の文。

ウ「彼は机の上で寝ているネコをなでた。」 taking a nap on the desk は the cat を後置修飾する形容詞用法の現在分詞。

オ「次を左に曲がれば、右側に駅があります。」 Taking the first left, は条件を表す分詞構文。

(3) 「全訳」下線部(2), (3)参照。

(2)○Using と rocking は付帯状況を表す分詞構文

○whistle *n.* 「口笛 (を吹くこと)」

○rock ~ *vt.* 「~を揺り動かす；~をゆする」

○set out to *do* 「…することを目指す；…を企て始める」

Ex. He set out to prove what he said was right. (彼は自分の発言が正しいことを証明し始めた。)

○despite = in spite of 「~にもかかわらず」の意味で譲歩を表す。

○far *adv.* : 比較級の前に置き, 「はるかに, ずっと」の意味で比較級を強調する。

Ex. Chimps are far more intelligent than dogs. (チンパンジーは犬よりはるかに頭がいい。)

○superior *adj.* : ラテン語由来の -or で終わる比較級で, 「(より) 優れた, 勝った」の意味を表す。⇔ inferior

(3)○to keep himself and Richard Parker fed
V' O' C'

○to keep は目的を表す副詞用法の不定詞。fed は feed の過去分詞。

○feed ~ *vt.* 「~に食べ物 (えさ) を与える」

全訳

パイの父親はインドで動物園を所有, 経営し, 家族は動物園内に住んでいる。パイと彼の兄は, 学校がないときは動物園の手伝いをする。この動物園で, パイは動物の心理と行動について多くを学ぶのだ。

パイが16歳になったとき, 彼の両親が支持しない新しい政府が選ばれる。将来のことを心配して, パイの両親は動物園を閉園し, カナダへ移住することに決める。一部の動物は北米の動物園に売り, 残った動物を連れて家族は船で旅立つ。旅の途中で, 猛烈な暴風雨に遭い, 船は沈没してしまう。悲劇的なことに, パイの家族と船員は全員おぼれて死んでしまうが, パイはハイエナ, シマウマ, オランウータン, それに巨大なトラと共に救命ボートにいる。最初, パイは動物たちが恐ろしくて海に飛び込んでしまう。その後, 周りの海にはお腹を空かせたサメがいることを思い出して, 救命ボートに戻る以外はないことを悟るのだ。一匹また一匹と, 救命ボートに乗っている動物たちは, 互いを殺して食べてしまう。そしてついにパイとトラだけが後に残る。パイにとって幸運なことに, リチャード・パーカーと名づけるそのトラは船に

酔い、今すぐにパイを食べようという気にはならない。

時間の経過とともに、船もヘリコプターも生存者を救出するために送られていないことがわかると、パイはリチャードが自分を攻撃しないよう、動物心理についての知識を使うことになる。(2)視線や口笛を使い、トラが船に酔うようボートを揺らして、トラのほうがはるかに力は勝ってはいるけれども、パイは自分が救命ボートを支配する動物であることをリチャード・パーカーに示そうとする。パイはボートに食料と水があるのを見つけるが、すぐに(3)自分自身とリチャード・パーカーに食料を与え続けるために、魚を捕り始めなくてはならない。

パイとリチャード・パーカーは、227日を救命ボートの中で過ごす。彼らは飢え、病気、極度の疲労、それに太平洋の燃えるような日差しのなかを生き抜くのである。ようやくメキシコの海岸が水平線に現れ、すべてが変わる。陸地が見えたときに、パイとリチャード・パーカーに何が起るのかを知るには、自分で本を読むといいだろう。

From *The Life of Pi : Book Review — Level 3* by Robin Newton

copyright © 2012 by Robin Newton

Used by permission of British Council

<http://learninglishteens.britishcouncil.org>

注

ℓ. 5 ○ be worried about ~ 「～のことで心配している、悩んでいる」

ℓ. 8 ○ tragically *adv.* 「悲劇的なことには、悲惨なことに〔文修飾〕」

○ drown *vi.* 「溺死する」

○ find oneself 「自分が（ある場所・状態に）いるのに気がつく」

Ex. She wandered through a narrow street and suddenly found herself on the beach. (彼女は細い通りをさ迷い歩くと、突然浜辺に出た。)

ℓ. 9 ○ enormous *adj.* 「巨大な、莫大な」 (= huge)

○ terrified (of ~) *adj.* 「～を怖がった、～におびえた」 (= very frightened) < terrify ~ *vt.* 「～を恐れさせる、～をおびえさせる」

ℓ.11 ○ realize ~ *vt.* 「～を悟る、～だとはっきり理解する」

ℓ.13 ○ the tiger, who he names Richard Parker,

→ He names the tiger [him] Richard Parker.

S V O C

正式には目的格の関係代名詞 whom を用いる。だが、くだけた言い方では主格関係代名詞の who を代わりに用いることができる。ここでの whom は非制限用法なので、先行詞 the tiger に説明を補足している。

○ seasick *adj.* 「船に酔った、船酔いの」

ℓ.16 ○ stop + O + …ing 「Oが…するのをやめさせる」 (= stop + O + from …ing)

ℓ.21 ○ live through 「(困難な状況)を生き抜く、切り抜ける」 (= survive)

Ex. My grandfather lived through two world wars. (祖父は2つの世界大戦を生き抜いた。)

ℓ.23 ○ the horizon 「水平線, 地平線」

0.24 ○ in sight 「見えて, 見えるところに」 ⇔ out of sight 「見えない, 見えないところに」

Ex. There was no one in sight. (誰の姿も見えなかった。)

【7】

解答

非常に幼い子供に数学を教えるのはとても容易である。というのは、子供たちには探究心があり、人を頼りにせず、自分自身で物事を理解したがるからである。大人に教える方がずっと難しい。なぜなら非常に多くの大人たちは、過去のまずい教え方によって自信が揺らいでしまっているからである。彼らは自分を数学での落第者だと思っているのである。

E1JS/E1J
高1 選抜東大英語
高1 東大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--

不許複製